

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム わかば

日付 平成19年3月31日
特定非営利活動法人
評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年
評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

設立して3年余り経過すると、その当時大変元気だった利用者の方々も精神的、身体的に高齢と共に重症化が進んで来た事を、現実の姿として認めざるを得ない。90歳前後の年代の人にとって、この変化は大きなものを感じる。このホームの現在のケアの重要項目として、利用者の個別の希望や意志に対する対応をあげた。『利用者一人ひとりの『感じる力』や『対応する力』を知り、心身への影響などを見極めた上で、必要な手立てを支援していく』という考えが、この利用者に対するケアの適格な答だろうと思う。

今日の昼食は、「ちらしずし」という事で、利用者の数人が下拵えに参加する。インゲン豆の筋取り、蒟の皮むき、端の皮を最初にむき取り、全部の皮を剥ぎ取る。「見事です、さすが経験者、良い手捌きに感心しました」「私らは、野に生える植物をよく採りましたね」と。山や野原で育った草木を大切にしていた時代を思い起こさせられた。えびの皮をむいて、今日の昼食の準備が整った。昼食の準備には、このように自分の手で仕事が出来る人や、それを見つめる人、味見をする人等、色々の自分の実力を問わず、皆で寄って一つのことを成し遂げると言う環境に、皆を参加させる職員の心遣いがあった。これが『感じる力』『対応する力』の実現の一つだろうと思った。

毎週1回、近所の農協の空地の一角で、近所の農家の人が野菜や果物、花、パンやおこわ等を持ち寄って、昼食を開催している。昼下がり、ホームの利用者と職員が散歩も兼ねて歩ける人も車椅子の人も揃って出掛ける。利用者も近隣の集落から来ている人も多く、この市に行くと、そこに売りに来ている農家の人や買いに来ている人に昔からの知り合いも多く、又この市で馴染みになった人々で交流の輪が出来て、しばらく楽しい時を過ごすことが出来る。地域の祭りやホームのわかば祭り等でも楽しい交流の場がある。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

グループホームが地域の中に浸透し、地域の中にホームがしっかり根付いていけるよう『運営推進会議の開催』が義務付けられている。色々計画されているようだが、まだ開催に辿り着いていない。早急に開催できるようにして、回を重ねる毎に内容を充実させていき、認知症に関する地域の重要な拠点となれるようにしてもらいたい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 利用者の心身の状態も重症化してくることは避けることは出来ない。グループホームが設立されて3年余りになるこの頃は、グループホームにとって最初の節目となる今日、「このグループホームの理念は何だった？このグループホームの目指すものは何だった？」と思い直してみたい。『尊厳、選択の自由、個別ケア』の理念をホームの中のケアマネジメントの中に、あるいは家族の協力を得て、地域密着型サービスの拠点となるようにするためには、この理念の元、どのような行動をしたら良いか、回りの人々にどのように理解してもらったら良いのか等を目指して、日々の行動の中で、職員が意識して利用者に対するケアの中で、このグループホームの特色をつけながら、このホームの良いところを根付かせていってもらう次のステップになったと思う。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 母体の池田病院に隣接した場所に3番目のグループホームとして設立された。ホームの建物としては、新しいだけにグループホームとしては恵まれたスペースとなっていて、ホームの中で利用者が生活していくには十分なスペースとなっている。利用者は広いリビングルームを寛ぎの生活の場所として利用している。リビングルームの一角に手作りのお雛さまの段飾りがしてある。ヨーグルトの空き容器を身体の内芯として、色紙の着物を装い、プラスチック製の顔が付けられている。お雛祭りでは、これを模したお寿司を作るそうだ。リビングルームの回りの壁には、一年中の催し物や行事、生活の様子が写真プリントしてある。このホームの生活振りが一目で分かるようにしてあり、家族も楽しむことが出来るだろう。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 介護計画を作成するために必要なアセスメント及びモニタリングするために、個人の経歴や能力等の情報を収集しておくことは今以上に必要となってくる。良い計画をし、適切なマネージメントをするために、それぞれの利用者の認知症になった要因の病気や人生の歩みをしっかりと把握して、その人が2年後、3年後の状態がどのようになるかを予測しておき、その人をどのようにケアしていいたら、その人が一番幸せなのか、どのように自己実現させてあげたら、その人にとって一番の生き甲斐を実現させてあげるかを皆で考えていくと、長期や短期の目標がはっきりしてくるのではないかと考える。医師や看護師、ケアマネージャー等を加えたケアチームの編成も必要となってくるのではないかと考える。ケアマネージメントの有り方を再考してもらいたいと期待する。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か このホームに普通科高校生が、グループホームの職員を目指して卒業前に実習していた。認知症だった祖母の姿を見て介護の道を選び、母の友達の紹介でこのホームを就職先に決めて、現在ホームヘルパーの講習会にも参加している。今後、介護福祉士を目指して頑張っている姿を見て、実に頼もしく微笑ましかった。又、このホームを就職先として選ばれた事は、このホームにとって喜ばしいことであると同時に、若い一人の立派な志ある学生を育てていく責任は大きい。優しい介護士の誕生を期待している。 このホームの管理者は、この法人の5つのグループホームの総括責任者でもあり、代表と共にグループホームのサービスの質の向上に対する責任も担っている。これから地域密着型サービス拠点として発展するよう期待している。		